

病 侯 水

有機水銀説に 自信を深める

帰国の武内熊大教授語る

九月十三日ローマで開かれた第七回国際神経学会に日本代表として出席、水俣病について、研究発表した熊本医学部の水俣病研究班（同学部内田慎男教授、徳臣晴比古助教ら四人）の一員、同学部病理学教室武内忠男教授はこのほど帰朝したが、九日午後記者会見を行ない、学会に出席して水俣病の原因が有機水銀によるものであることの自信をさらに強くした。今後は水俣病の病源について最終的な研究を行ないたい」とつぎのように語った。

学会には世界各国から約百人が出席、最近世界で発生しているふしぎな病気について発表が行

記者会見する武内教授

なわれた。日本、イギリス、インドなど四カ国から発表されたが、このうち総職員移イギリスで発生したイギリス病も、水俣病と全く同じ症状で、これも有機水銀が原因となっており、自分たちの水俣病有機水銀説を裏づけるようなものだった。

イギリスの場合、工場で有機水銀を扱っていた人がこの病気にかかっているが、水俣病の場合、工場で有機水銀を扱っておらず、また工場の排液の中にも有機水銀が含まれてないので、

今後は有機水銀がどうしてできるかの最終的研究を続けたい。また学会ではわれわれの研究に世界各国の代表が敬服、今後一層研究を続けるよう激励を受けた。今後化学工業が進むにつれこの種の病気がさらに発生すると思われるので、われわれ医学者はこれらの病気究明にあたり、化学工業の進歩に支障のないようにしたいと申し合わせた。

なお武内教授らは八月十九日加本を出発、ドイツ、フランスなど欧州各国の医学事情を視察して帰国したもので、内田教授は今年の暮れ、徳臣助教は来春帰国の予定。

また同学部の水俣病研究費として、アメリカの国立医学研究所から約四百万円を今年と来年の二回にわけて支給することになった」とこのほどアメリカ政府から同学部に連絡があった。